

府中学園視察 池田前校長のお話（概要版）

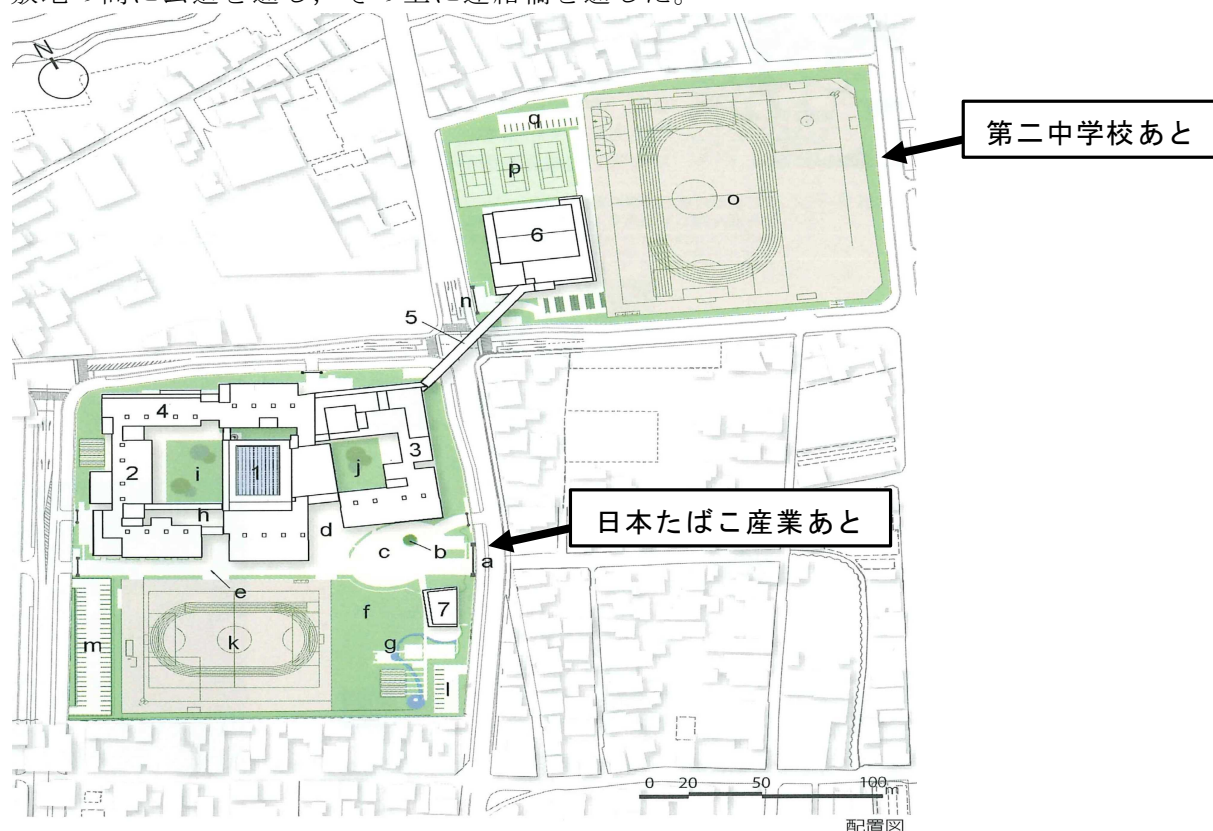
○学校建設までの経緯

- ・ 15年以上前、府中市は人口減少のため、学校再編の動きが出始めた。
- ・ 平成7年、文部省から広島県に「学習指導要領に則った指導をしていない」と是正指導が入り、府中市民から教育内容をきちんとしてほしいとの声が上がった。
- ・ 全国であまり例のなかった小中一貫教育をしている東京都の日野学園を数回視察。
- ・ 日本たばこ産業が撤退し、広大な敷地を府中市が購入した。

→第二中学校と日本たばこ産業の敷地を一体的に利用し、「小中一貫校」を建設することになった。（小学校4校，中学校1校，（児童生徒1，000人））

○2つの敷地の利用について

- ・ 第二中学校あと…中学生が体育や部活動で利用
- ・ 日本たばこ産業あと…1年生～9年生までの校舎。小学生の体育等。すべての学年がすぐにグラウンドに出られる。→最短時間，最短距離で全学年が集合可能。
- ・ 2つの敷地の間に公道を通し，その上に連絡橋を通した。



1 センター棟 2 西棟 3 東棟 4 北棟 5 府中学園陸橋 6 体育館（ビッグ・キューブ） 7 放課後児童クラブ
a 正門 b 専売松 c 出会いの広場 d 中央通路 e 桜並木 f 芝生広場 g 自然体験広場 h 集いの広場 i 西中庭
j 東中庭 k 南グラウンド l 東駐車場 m 西駐車場 n 陸橋門 o 北グラウンド p テニスコート q 北駐車場

○ 9 年間で旅として考えるストーリーコンセプト

- ・「人間関係が固定化し、関係がこじれたら修復が難しい」「いじめがあれば長く続く」等の不安を持つ方がいたが、学年同士の交流が多い学園での生活ではその心配はなく、異学年の関係が非常に良い影響を与えていると思う。

○ 1 年生・2 年生の教室

- ・1 階に位置し、ほとんど教室周りで生活できるように設計。教室の端に、ゴロゴロできるマットを敷いたスペースがあり、非常によい学習環境を作っていると思う。

○ 3 ～ 6 年生の教室

- ・廊下側に壁のないオープンスペース。他の学級とのつながりを考えた行動も可能。
- ・教室前に、非常に広いスペース（通常の内廊下の 4 倍ぐらいの広さ）があり、学年集会など学年全体がすぐに集まることが可能。
- ・壁がないので、隣のクラスの声が気になることを心配する人もいるだろうが、児童はずっとここで生活しているので、特に気にならないと言っている。また、隣のクラスに迷惑をかけないように行動するという意識も身につく。

○ 7 ～ 9 年生の教室

- ・すべての教科に教室がある「教科教室制」。
- ・自分クラスのホームベースに教科書等を入れておき、次の授業の準備物をもって、教科教室に移動。
- ・時間を意識して動くことで、自分の行動に責任を持つことが求められる。
- ・それぞれの教科に適した環境にすることで、教科の特徴を出すことができる。

○ 9 年間飽きのこないような工夫

- ・壁の色や描かれているデザイン。学年の特徴を色で分けたり、教科について児童・生徒が興味を持つものを描いている。

○ 教室配置等について

- ・2 階建てで、上から見たら 8 の字の形。そのあいだに 2 つの芝生広場がある。
- ・中央部に理科教室、音楽室、家庭科室など特別教室を配置。このエリアは、学校で生活するなかで、小学生と中学生が出会える場所になっている。

○体育館について

- ・「センターホール」と第二中学校あとの「ビッグキューブ」の2つ。
 - ・センターホール…儀式・学校行事や1～6年生の体育で使用。
 - ・ビッグキューブ…7年生以上の体育や部活動などで使用。
 - ・学校行事（文化祭・学習発表会など）では練習に多くの時間が必要。儀式をするにも準備が必要。その間、体育や部活動をする必要がある。
- 各種活動を絶やすことなく時間割を組むには、2つの体育館が必要。

○職員室と保健室

- ・職員室…1か所。70名を超える職員が入ることができる。
- 全職員が一つになって頭を突き合わせて、いろいろなことを考えたり話せたりすることが重要。特に問題など発生時には、学年を超えて動くことが可能となる。
- ・保健室…1か所。養護教諭2人で保健室経営を進めている。当初、小中学生が一緒の場所に来ることを心配する声があったが、結果的に心配するようなことはなかった。

○府中市のシンボル

- ・府中市の中心地に立地。
 - ・府中市の夏祭りやイベントなどで使用。
- 学校は学校教育だけをする施設ではない。市を挙げて学校を活用していくことを考える必要あり。

○毎年、9年生全員に面接を実施

- 「府中学園で一番好きな場所は？」…ビオトープ、図書館、団らんスクエア、トイレなど
- あそび（なくてもいい場所）がたくさんある。設計時に教育関係者から「死角が多いと学校が荒れたときに心配」「本当に必要なのか」との声があったが、児童・生徒のころを育てるのに非常に大切な場所になっていると強く思っている。
- 「府中学園で9年間学んでどのように思うか？」「義務教育学校ではなく、普通の小学校・中学校で学んだ方がよかったのでは？」
- …府中学園で9年間生活してよかったとの声が大多数。「9年間で非常に大切な友達・親友を作ることができた。」「たくさんの小さな後輩達と生活することができた。」など。

○学校建設で是非取り入れてほしい思い

- ・いくら良い物を使っても壊れた場合、修理が難しかったり、高価であったりして大変だった。

→学校は長く活用し続ける建物であり、多くの子ども達が使い続けることを考えた設計が大切。

- ・長く使っていると、使わなくなったり、管理できなくなる場所が出てくること。

例) パソコン教室… 1人1台端末の普及により、利用が少なくなった。

ビオトープ…当初はきれいな場所だったが、年数が経ち荒れたところが目立ち、学校だけで管理が難しくなった。

木々…植えた当初はきれいだったが、年々成長して管理が大変。

《最後に》

府中学園のような環境で児童・生徒を育てていただければ、たくましく、優しく、一人ひとりの持っている力や可能性をさらに伸ばしていくことができると確信している。

【質疑応答】

Q 事後評価の大切さはとても重要だと思う。メンテナンス面での問題点が参考になった。今後の整備でもそういった視点を取り入れていくとよい。オープンタイプの学校の最大のメリットは壁がないこと。見学した際、オープンスペースをとてもうまく使われていると感じた。デメリットは収納するスペースが減ること。先生方から収納力が足りないとの声が出ていないか。

A 建物建設時に収納についてすごく議論になった。先ほど、職員室でもものが机上にないとの話をされていたが、当初確かにロッカー等が少ないと思った。

本校では、例えば、学年で3クラスあったら、3つではなく1つを保管しておけばよいなど、いろいろ考え方を変えていくようにした。そういったなかで、ものを管理するスペースが足りないということは聞いていない。逆にうまく収納していき、もっと物を減らそうという風に考えている。

Q ほかの学校を見てきたが、府中学園は本当にものがない。通常、子どもたちの私物が多く、机の両脇やロッカーにはみ出るぐらいあるもの。今日、ロッカーの中を見せてもらったが、必要なものだけがきれいに入っていた。収納を増やすほど物は増えていく。指導の内容の中で、収納のことがきちんとできていると思われる。

A 職員室も典型だと思う。ものがあふれている、自分のものを持たないといけないという感覚は変えないといけないと思う。

Q 教材室はたくさんあるのか。

A 学年に1つある。中学生は教科教室があるので、そちらにある。

Q 書庫があまりない、職員室の机の上がきれいだと感じた。

A 何か所かは書庫のようなものがある。保存しておく必要があるものがあるため。

Q コミュニティースクール的な地域が入ってくることはあるのか。

A 来たい、見たい、子どもが心配で、「見させてほしい」と言われれば、見ていただきたいと思う。それにより、いろいろなご意見をいただく。コミュニティースクールが始まり、皆様のおかげで学校が変わってきたと改めて思う。

これから学校建設をするのであれば、地域の方と子どもが学ぶための部屋をあらかじめ作っておくことも必要になってくると思う。

Q 学校の行事の手伝い等で、地域からボランティアを受け入れる計画はあるのか。

A P T Aに手伝ってもらうことはある。地域の方にゲストティーチャーとして授業を手伝っていただくことは頻繁にある。

Q 地域室のような部屋はないのか。

A そのような部屋はない。あってもいいと思う。

Q 教員の席が、教室内ではなくオープンスペースに出ていたが、その意図は。

A 元々は教室内にあったが、コロナ禍で子どもの席の間隔を広げる必要が出た。子どもの席を外に出せないなので、担任の席を出した。ただ、一度外に出してみたら、教室全体が見ることができて、意外とよかったと思っている。

Q 上や下や出窓など、窓がたくさんあった。建設時に指示を出したのか。それとも、業者からの提案か。

A 業者からの提案。9年間同じような環境で生活するのでなく、変化があり飽きないような環境を作っていくという工夫が随所になされている。

笠岡でも限られた条件の中でこれから作っていかれると思う。皆さんと一緒に知恵を出したら、本当にいいアイデアが出てきて、絶対に良いものが作られると思う。一体型小中一貫校は、子どもたちに必ずいい影響を与えるということは全国的にいろいろなところで結果がでているので、自信をもってやっていけばいいと思う。

Q 「あと1つ好きなものを作っていい」と言われたら、何を作りたいか。

A 壁紙1つ見てもすごく凝っているため、なかなか簡単に直らない。壊れたところがすごく気になる。できるとしたら、そういったことがないような環境をプラスアルファできれば、それが一番いいと思う。

Q 多目的スペースを使う頻度はどのくらいか。

A 展示などをほぼ1年を通じて行っている。黒板アートなども美術部が書いて、飾ってくれたりする。また、新しいアイデアが出てきたら、今までとは違った使い方ができると思う。

Q 多目的スペースの階段はすごいと思う。

A 小さい子があそこでけがをしないようにということを十分注意した。施設全体として急な階段ではなく、なめらかに上がっていけるように低い階段を設置している。

Q 府中市全体で小中一貫教育をしているのか。

A それぞれ環境が違うが、全市で行っている。義務教育学校は、府中学園と府中明郷学園。ほかは、小中連携型の上下学園と小中併用型の府南学園。

府中学園は、市の中心にあるので、いろいろな形でここを使いたいという行政側の思いが詰まっている。

Q 音楽室のピアノは寄附されたものと聞いた。ほかにも企業や市民も含めて、一体となって学校を作っていくという雰囲気があったのか。

A ある企業から、良質な壁紙の提供を受けた。ほか企業には、数か所にある校章を鉄から作っていただいた。ライオンズクラブなどにも寄附をいただいた。よい学校にしよう、市民を挙げて作っていったと思う。

Q 校歌はどのようにしたのか。

A 第二中学校の校歌の校名を府中学園に変え，他はそのまま使った。作詞・作曲した方のご遺族に「どうしてもこういう思いで校歌を変えたい」と伝え，了解をいただき，変えることができた。大変苦労したが，皆さん喜んでくださっている。お年寄りも府中学園の校歌を口ずさんでいる。また，校章も第二中学校のもの。